

1.2 5・6号機の工程

1.2.1 原子炉及び使用済燃料プールの冷却・滞留水処理

(1)原子炉及び使用済燃料プール内の燃料取出し終了までは、原子炉及び使用済燃料プールの冷却を継続し、冷温停止を安定的に維持する。

(2)5・6号機の滞留水は仮設設備による処理及び発生量抑制を継続する。また、更なる発生量抑制のため、サブドレン設備については設備の浄化及び設置を行い、その結果等を踏まえて、順次復旧を行っていく。

必要に応じて貯留能力の増強及び信頼性向上対策を進める。

1.2.2 5・6号機からの燃料取出計画

福島第一原子力発電所の使用済燃料の貯蔵は、各号機の使用済燃料プールと使用済燃料共用プールでの貯蔵を併用することにより、サイト全体としての融通性を持った運用としている。使用済燃料プールから使用済燃料共用プールへの燃料搬出は、1～4号機が優先されるものであるが、5・6号機については自然災害（地震、津波）により冷却機能が喪失し燃料損傷に至るリスクを低減するため、原子炉に装荷されている炉内燃料及び使用済燃料プールに貯蔵している使用済燃料を準備（燃料交換機等の復旧）が整い次第、原子炉開放及び燃料移動を行い、1～4号機の燃料搬出に影響を与えない範囲で、使用済燃料共用プールへ搬出する。（I.2.3.4 参照）

1.2.3 4号機から6号機への新燃料受入計画

4号機の燃料は使用済燃料共用プールに受入れることを基本としているが、使用済燃料共用プールの空き容量を確保するための輸送貯蔵兼用キャスクの調達が遅延しており、使用済燃料共用プール内に新燃料の保管場所を確保することが困難な状況となった。このことから、燃料管理上の信頼性向上を図るため、新燃料の一部について震災後に復旧し設計上想定内の環境で使用している6号機の使用済燃料プールに受入れることを計画している。新燃料の内蔵する放射能は使用済燃料に比べて十分小さく、崩壊熱も無視できることから自然災害により冷却機能が喪失し燃料損傷に至るリスクはない。（I.2.3.4 参照）

なお、新燃料の一部を受入れるが、5・6号機に貯蔵している使用済燃料を1～4号機の燃料搬出に影響を与えない範囲で使用済燃料共用プールへ搬出する計画に変更はない。

1.2.4 添付資料

添付資料ー1 5・6号機 中期スケジュール

年度	2012				2013				2014				2015	2016		
	1 2月	1 月	2 月	3 月	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期				
維持・継続に向けた状態	原子炉及び使用済燃料プールの冷却計画	冷温停止の維持・管理														
		滞留水処理計画	仮設備による滞留水処理（移送・貯留），発生量抑制（構内散水・止水*1）													
			発生量抑制（サブドレン設備浄化・設置）													
			貯留能力の増強（貯留設備（タンク）の増設）													
			信頼性向上対策（移送設備のポリエチレン管化・淡水化装置の増設等）													
5・6号機からの燃料取出計画	5号機	復旧計画	原子炉建屋天井クレーン復旧				燃料交換機復旧									
		燃料取出計画					原子炉開放燃料移動*2				燃料搬出*3 (使用済燃料プール→使用済燃料共用プール)					
	6号機	復旧計画	原子炉建屋天井クレーン復旧		燃料交換機復旧											
		燃料取出計画					原子炉開放燃料移動*2				燃料搬出*3 (使用済燃料プール→使用済燃料共用プール)					

* 1 : 適宜流入箇所止水を実施する。
 * 2 : 原子炉から使用済燃料プールへ燃料を移動する。
 * 3 : 5・6号機は1～4号機の燃料搬出に影響を与えない範囲で，使用済燃料共用プールへ搬出する。
 補足：本中期スケジュールについては，現場状況を踏まえて，継続的に見直していく。

図－ 1 5・6号機 中期スケジュール